

ニュースレター

(タイトル募集中)

2023年 第1号 2023年1月1日発行



発行人：日本コウノトリの会
〒669-6103 兵庫県豊岡市城崎町今津1362
TEL：0796-20-8560 FAX：0796-20-6302
ウェブサイト：<https://www.owss-j.com/>



石川県津幡町・河北潟の人工巣塔
コウノトリ市民科学より(Hi-jet氏)

目次

- ・ 代表挨拶
- ・ 2022年度繁殖状況
- ・ コウノトリへの想い
- ・ コウノトリ市民科学の分析
- ・ 戸島湿地における繁殖記録
- ・ お知らせ

代表 佐竹 節夫
事務局 永瀬 倖大
理事 八木 昭
会員 大坂 真希
会員 井上 遠
事務局より

コウノトリ野生復帰はようやく自分で歩き出した。

これからが面白くなるぞ！

日本コウノトリの会代表 佐竹 節夫

会員の皆様、明けましておめでとうございます。本年もボチボチと、しかし気を引き締めてやっつけていきましょう。

ご承知のとおり、コウノトリ野生復帰を取り巻く状況はこのところ激変しだしています。今や、国内の野生で暮らす個体数は約380羽（当会調べ）、営業数は10府県、20市町で46カ所を数えるに至っています。それに併行するように、当会の正・賛助会員数も175人・企業と増え、全国的にも広がっています。市民による個体目撃網のコウノトリ市民科学も登録者539名、寄せられた件数は77,845件（2022年10月末）と積み重なっています。もう、10年前、いや5年前のことは当てはまらなくなってきました。したり顔で話していたことがしょっちゅう覆されています。当会では、刻々と変わっていくコウノトリと社会の様子を、その都度HPやブログで公開し発信してきましたが、やはりそれだけでは不十分。会員増に伴って、新規に入会された方、高齢の方にとっては部分

的な情報は分かりにくかったと反省しています。そこで、新年を機に、紙ベースによる会報を発行することにしました。当会の考え方や野生復帰の進展具合を整理してお伝えすること、なるべく幅広く交流することが目的です。読者からの反応があれば、編集部もさらに頑張るでしょう。大いにやりとりしてください。

豊岡市でコウノトリを初めて放鳥して17年。個体数が増加し、全ての都道府県で飛来する姿が見えるようになると、必然のように人々の緊張感が薄れてきました。「もう、野生復帰は成功したので、努力する必要はない」との風潮が蔓延しています。昨年10月にはコウノトリの中核施設・コウノトリの郷公園自体が「過度な保護策は見直すべきで」、今後は「ある程度の自然淘汰も辞さない」と表明されました。さらに、コウノトリが増えすぎると「希少な湿地生物を（採餌して）絶滅させてしまう可能性もある」ので、「コウノトリの繁殖を制限する必要もある」とのことです。つまり、コウノトリ

が手に負えなくなってきたとの嘆き節です。私たちは当初から一貫して、コウノトリ野生復帰の目的は「一度壊してしまった『コウノトリも生息する社会』を再生・創造すること」に置いてきました。そのためには、脆弱になった生物環境を大食漢のコウノトリにいくら食べられてもびくともしない豊かな湿地環境（食物連鎖が機能）を創るべきと主張してきました。すべきことはいくらでもあります。特定の希少種が心配なら、その生物を愛する人々がその生息環境を全力で再生すべきです。その取り組み過程で必ずコウノトリを愛する私たちとつながっていくでしょう。

コウノトリはますます自由奔放にふるまい、人間に困難を与える場も増えてくるでしょう。だから、これからが真剣勝負、きれいごとではない野生復帰の本番です。当会がどのように保護し続けることができるか問われています。悩み、苦しみ、そして楽しく、共に進んでいきましょう。

2022年度

コウノトリ繁殖状況

事務局 永瀬 倅大

2022年度でコウノトリたちが巢作りを行った場所は、2021年度の35ヶ所から53ヶ所と

なり、繁殖したペアは推定を含め33ペアから47ペアとなりました(表1)。「繁殖」は「産卵推定」を指し、「ペア」は「産卵した2羽」の事を指しています。

新たに繁殖が確認された都道府県は、千葉県、石川県、佐賀県の3県で、日本国内での繁殖地の東と北と西の端が更新されました。繁殖地については図1と図2で示しておりますので、こちらも併せてご覧いただくとわかりやすいかと思えます。

繁殖地に利用された場所の内訳としては、巣塔が33ヶ所、その他(電柱・鉄塔・電波塔)が14ヶ所となりました。2021年度は、巣塔が29ヶ所、電柱が4ヶ所だったので、巣塔以外での繁殖が急激に増加したのがわかります。すなわち人工巣塔の設置が急務となっております。



鳥取県八頭町鉄塔での営巣
(コウノトリ市民科学よりピッツィ氏)



豊岡市戸島電柱での営巣

コウノトリの羽数が増えるとともに、飛翔圏は広がり、適齢期のコウノトリも増加してきている反面、コウノトリの飛来を受け入れる体制づくりは、まだまだ確立されていないという事

No	都道府県	市町	♂	♀	産卵	No	都道府県	市町	♂	♀	産卵			
1	兵庫県	豊岡市	戸島	J0391	J0294	○	24	京都府	舞鶴市	岡田由里	J0126	J0105	○	
2			戸島電柱巣	J0122	J0103	○	25		綾部市	上杉町	J0213	J0170	○	
3			赤石	J0426	J0017	○	26			梅迫町	J0241	J0233	○	
4			野上	J0001	J0362	○	27			西方町	J0220	J0227	○	
5			福田	J0177	J0010	○	28			非公開	J0174	J0179	○	
6			庄境	J0476	J0059	○	29		京丹後市	市場	J0150	J0089	○	
7			祥雲寺	J0021	エヒメ	○	30			永留	なし	J0131	○	
8			百合地	J0025	J0100	○	31			島津	J0046	J0053	○	
9			河谷	J0178	J0114	○	32			網野町	J0091	J0104	○	
10			袴狭	J0500	J0428	○	33		鳥取県	八頭郡八頭町		J0135	J0144	○
11			水上	J0097	J0110	○	34	東伯郡北栄町			J0240	J0263	○	
12			森井	J0057	J0130	○	35	鳥根県	鳥取市	気高町	J0125	J0123	○	
13			森尾	J0111	J0099	○	36		雲南市	仁和寺	J0118	J0051	○	
14			伊豆	J0381	J0296	○	37	徳島県	鳴門市	坂東	J0044	J0481	○	
15			山本	J0011	J0024	○	38		福井県	安養寺町	J0138	J0132	○	
16			下鉢山	J0054	J0156	○	39	越前市		白山	J0481	J0119	○	
17			広井	J0210	J0087	○	40	坂口		J0161	J0078	○		
18				J0180	J0087	○	41	鯖江市		田村町	J0169	J0218	○	
19			唐川	J0151	J0501	○	42	小浜市	国富	J0206	J0196	○		
20			養父市	伊佐	J0013	永留B	○		43	栃木県	小山市	下生井	J0128	J0238
21			朝来市	久田和	J0173	J0157	○	44	石川県	河北郡津幡町	湖東	野生個体	J0230	○
22				三保	J0112	J0015	○	45		羽咋郡志賀町	J0195	J0205	○	
23			淡路市	大町下	J0200	J0167	○	46	佐賀県	白石町	J0141	J0133	○	
						47	千葉県	旭市	J0117	J0116	○			

表1：全国繁殖地

2022年度は、電柱や鉄塔に巣をかける事案が増えましたが、そこから巣立ちしたヒナもおり、今年一年はその場で繁殖させてあげたいという各地の熱い思いを感じた繁殖期でした。

	♂	♀
2007	0	1
2008	3	5
2009	4	5
2010	5	3
2011	3	6
2012	4	8
2013	11	11
2014	9	7
2015	3	10
2016	4	8
2017	14	18
2018	10	16
2019	19	27
2020	25	28
2021	28	34
2022	47	33

表2：年ごと雌雄表
(放鳥を除く)

2022年度は、新たに野外で足環装着されたコウノトリは81羽、放鳥されたのが3羽でした。また、足環未装着が1羽(千葉県旭市生まれ)います。放鳥個体を除いた雌雄の内訳は、オスが49羽でメスが34羽、不明(旭市)が1羽となり、オスの方が15羽多くなりました。野外生まれでオスの方が多かった年は、これまで3度目(2010年、2014年、2022年)となります(表2)。

繁殖に至ったものの、卵の収容が行われたり、卵がふ化しなかったペアは1ペアで、一方ヒナがふ化後、巣立ちまで至らなかったのは2ペアありました。

2022年度、新たに野外で足環装着されたコウノトリは81羽、放鳥されたのが3羽でした。また、足環未装着が1羽(千葉県旭市生まれ)います。放鳥個体を除いた雌雄の内訳は、オスが49羽でメスが34羽、不明(旭市)が1羽となり、オスの方が15羽多くなりました。野外生まれでオスの方が多かった年は、これまで3度目(2010年、2014年、2022年)となります(表2)。

繁殖に至ったものの、卵の収容が行われたり、卵がふ化しなかったペアは1ペアで、一方ヒナがふ化後、巣立ちまで至らなかったのは2ペアありました。

2022年度、新たに野外で足環装着されたコウノトリは81羽、放鳥されたのが3羽でした。また、足環未装着が1羽(千葉県旭市生まれ)います。放鳥個体を除いた雌雄の内訳は、オスが49羽でメスが34羽、不明(旭市)が1羽となり、オスの方が15羽多くなりました。野外生まれでオスの方が多かった年は、これまで3度目(2010年、2014年、2022年)となります(表2)。

但馬丹後 2022年度 繁殖地点

- 豊岡市
 A 戸島
 A 戸島電柱巢
 B 赤石
 C 野上
 D 福田
 E 庄境 ※1
 F 祥雲寺 ※2
 G 百合地 ※3
 H 河谷
 I 森尾
 J 下鉢山 ※1
 K 出石町伊豆
 L 出石町袴狭
 M 但東町唐川
 N 出石町森井
 O 出石町水上
 P 日高町山本
 Q 日高町広井 ※1

- 養父市
 R 八鹿町伊佐
 朝来市
 S 和田山町久田和
 W 山東町三保
 ※1
 京丹後市
 T 久美浜町永留
 U 久美浜町市場
 V 網野町島津

※1 産卵したがふ化せず
 ※2 近親ペアのため卵の收容
 ※3 ヒナは巣立ちせず

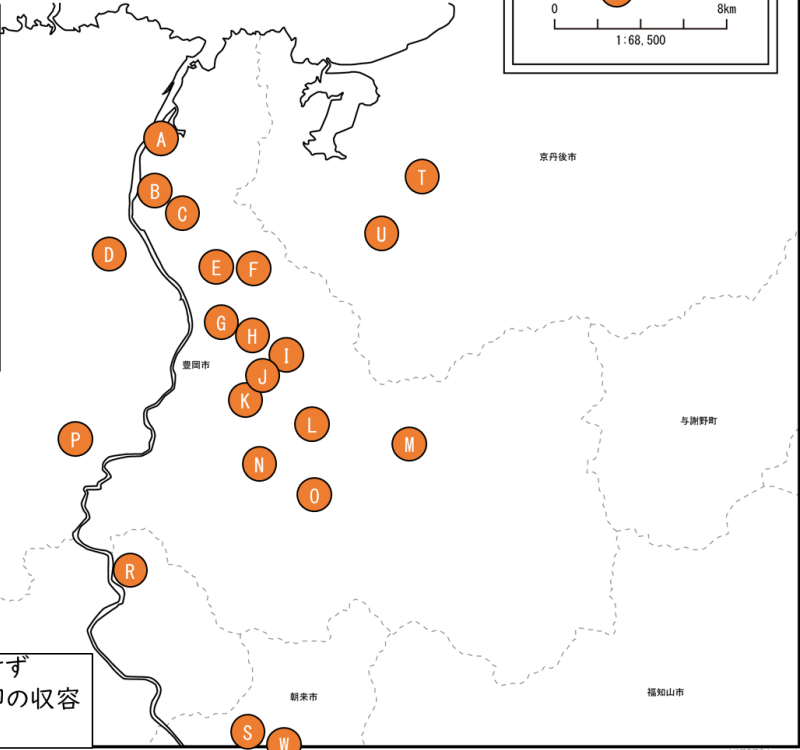


図1 :2022年度 但馬丹後地域繁殖場所(23ヶ所)



2022年度 全国繁殖場所

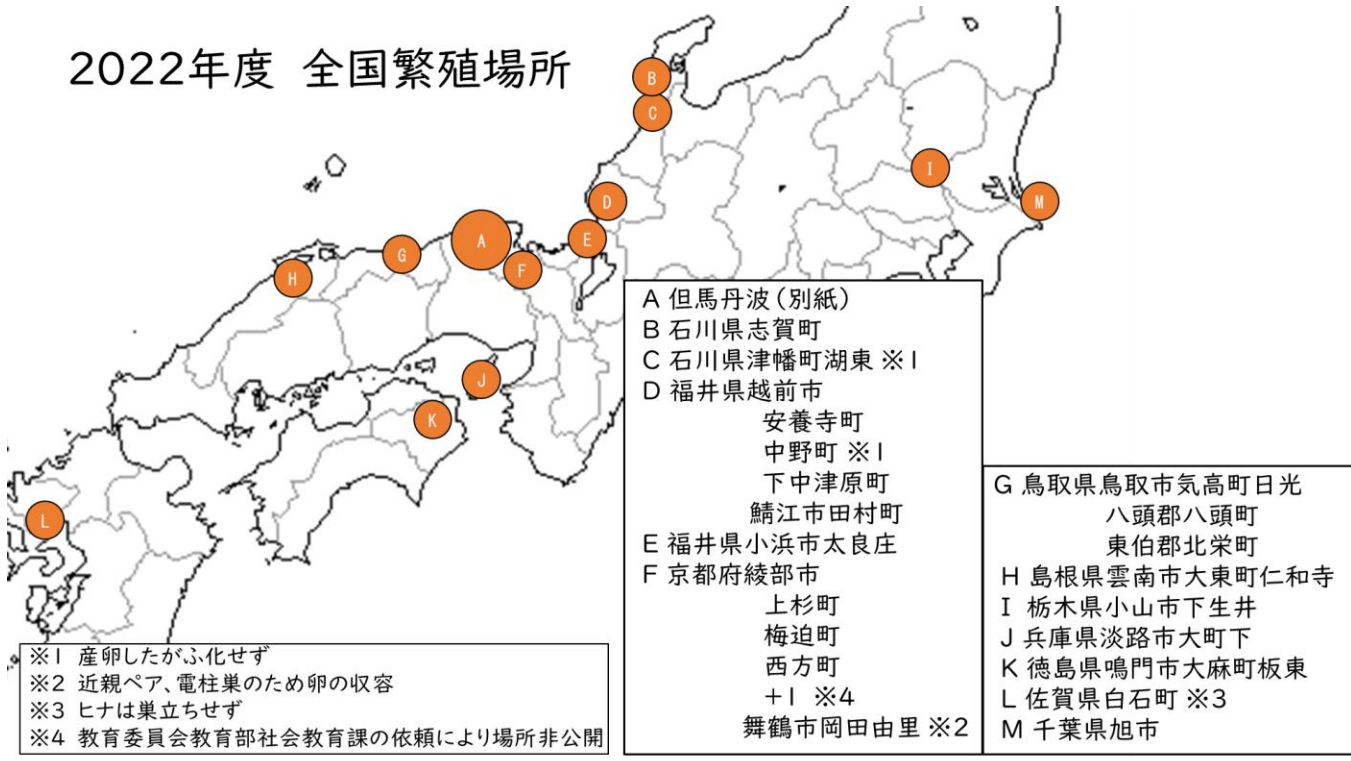


図2 :2022年度全国繁殖場所(20ヶ所)

コウノトリへの想い

日本コウノトリの会 理事 八木昭

私が最初に野生のコウノトリと出会ったのは、1970年12月、福井県武生市でのことです。遠くの雪の中に寂しそうに立っていました。下くちばしの半分が折れた、「武生」と呼ばれていたメスで、今になってもその時に見た光景はよく覚えています。

それ以来、京都府下に「コウノトリ？」飛来の連絡があればそのつど確認に現地に出向きました。その場所は今でもコウノトリがよく飛来し、重要な生息地になっています。

コウノトリが私のライフワークになったきっかけは、2004年10月22日のことです。その日台風23号が去った後の保津川の水没地域に飛来した1羽のコウノトリ（中国生まれ♀装着リング有り）が飛来したのです。飛来地は、京都府が亀岡での遊水地整備事業中の工事現場でした。

コウノトリ飛来報道後には、時には100人を超える見物者が何度もありました。この時期は、豊岡では2005年のコウノトリの試験放鳥に向けて取り組まれていて、コウノトリの郷公園から一日でも長く滞在するようにと協力願いを受けました。

京都府と共同で、コウノトリ生息地域での発砲自粛の呼び掛けや、工事現場地域にカメラマンや見物人がコウノトリに近づきすぎて飛ばす事があったので地域内に人が入る事を規制する「コウノトリ保護区」を勝手に(?)設定しました。(この当時には、他の飛来地では、見学者のマナーの悪さなどで、数日で飛び去る事例が多くあった)この当時の京都府の関係者の対応の早さには、今でも感謝しています。それなのに最近は何故出来ないのか…。

コウノトリ見学に何度も来られたり、毎日の散歩途中の人たちが、コウノトリからの発信を各自の想いで受け止めて、自然に「いつまでも亀岡の空にコウノトリが舞い続けることを期待し、多くの動植物と人間が共生できる」ことを目的とした「亀岡コウノトリの会」が、50名の参加者で設立されました。

その後の「会」の活動として、私も参加者もコウノトリの事が解らないので、豊岡市のコウノトリの郷公園や「コウノトリファンクラブ」にも団体加入して、機会があればコウノトリ関係の集まりには積極的に会員共に参加してきました。2005年9月24日の5羽の初放鳥や、翌年の円山川の放鳥会にもバスで参加しました。2004年の4ヶ月間、亀岡で野生コウノトリモニタリングしたことを思い出します。

その後は、2004年秋期にJ0085♀(エヒメの子供)が約1ヶ月滞在し、2009年からは毎年10羽以上が飛来して、当時の仲間(亀岡コウノトリ)の思いは実現できたと思っています。2009年秋期の久しぶりの飛来後に、「日本コウノトリの会」から2020年度に地元で巣塔設置したいとの話があり、南丹市八木町室橋「文覚池」横に地元の方々の理解と協力により8月に巣塔設置が実現しました。これがきっかけとなり、地元ではコウノトリの繁殖に向けて「室橋コウノトリを育む会」が設立されました。

2021年秋期には、J0213♂とJ0170♀が一緒に室橋文覚池に飛来し、他のコウノトリを追い払う行動が頻繁にあり、ますます繁殖の可能性も期待されました。2022年1月に入ると、頻発に巣塔にとまり巣材運び?の光景もたびたび目撃され、1月25日には、交尾行動も観察されたが、2月8日以後は姿も見られず、その後に2羽は、綾部市上杉地区で3羽のひなを巣立ちさせました。

地元では落胆されたが、もう一度は帰ってくるとの思いで、巣塔近くにコウノトリ用のピオトープづくりが取り組まれました。思いは通じたか、9月21日昼過ぎに、J0213♂とJ0170♀が一緒に室橋地区に帰ってきて、その数日後には2羽でピオトープに舞い降りて餌を捕

食し巣塔にも止まったりしました。地元では、1月以降に再び文覚池に帰ってくるために、池の水位の調整を行い、今までのコウノトリ定説（前年度繁殖地に帰って営巣する）が覆ることを思って、前年の失敗を反省し、新たな取り組みを行って、繁殖地を文覚池巣塔で繁殖・ヒナの誕生に望みを持っておられます。私もヒナの誕生が地元で実現するように、毎日のコウノトリ通いを続けています。



南丹市の巣塔に止まった
J0213♂とJ0170♀
(コウノトリ市民科学より リンダ氏)



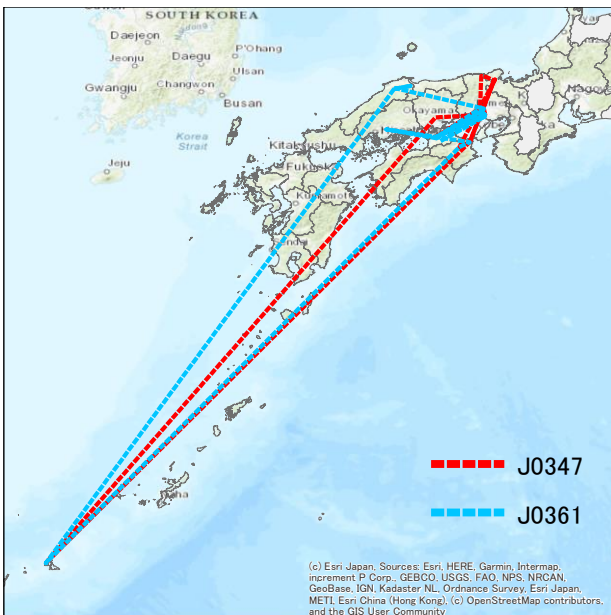
京都府南丹市での人工巣塔設置

コウノトリ市民科学

日本コウノトリの会 会員 大坂 真希

2022年もコウノトリ市民科学に情報が多く寄せられました。2022年は137名の調査員が参加し、その報告件数は、11月30日の時点で25,581件でした。2021年の報告件数(18,349件)と比較すると大幅に報告件数が増えた1年でした。今後、データを活用して積極的に分析・情報発信をしていきたいと思っています。今年も皆様のご報告をお待ちしております。

今回はコウノトリの移動に着目して市民科学のデータ分析を行いました。まず、2022年の1年間で市民科学に報告された各個体の移動軌跡を追って、1年間の総移動距離を算出しました。最も移動距離の長かったコウノトリはJ0361(西楽)で、約4000kmの移動が確認されました。次いで、2番目に移動距離の長かったコウノトリはJ0347(にじ)で、約3800kmの移動が確認されました。市民科学で確認された移動のみを参考にしているので、実際はもっと長い距離を移動していることが考えられます。(参考値:最北端の宗谷岬から最南端の沖ノ鳥島まで2845km)。



また、この2羽は4月28日に徳島県鳴門市で、6月28日に沖縄県宮古島で確認されており、島根県から沖縄県まで一緒に長距離移動したことが考えられます。宮古島には長期滞在せず、J0361(西楽)は6月には島根県雲南市で、J0347(にじ)は8月に岡山県岡山市に戻っており、短期間で本州と宮古島を往来することも分かりました。余談ですが、今年には沖縄県を超えて、台湾まで移動したコウノトリ(J0504)も確認されており、国を越えた長距離移動も確認されています。

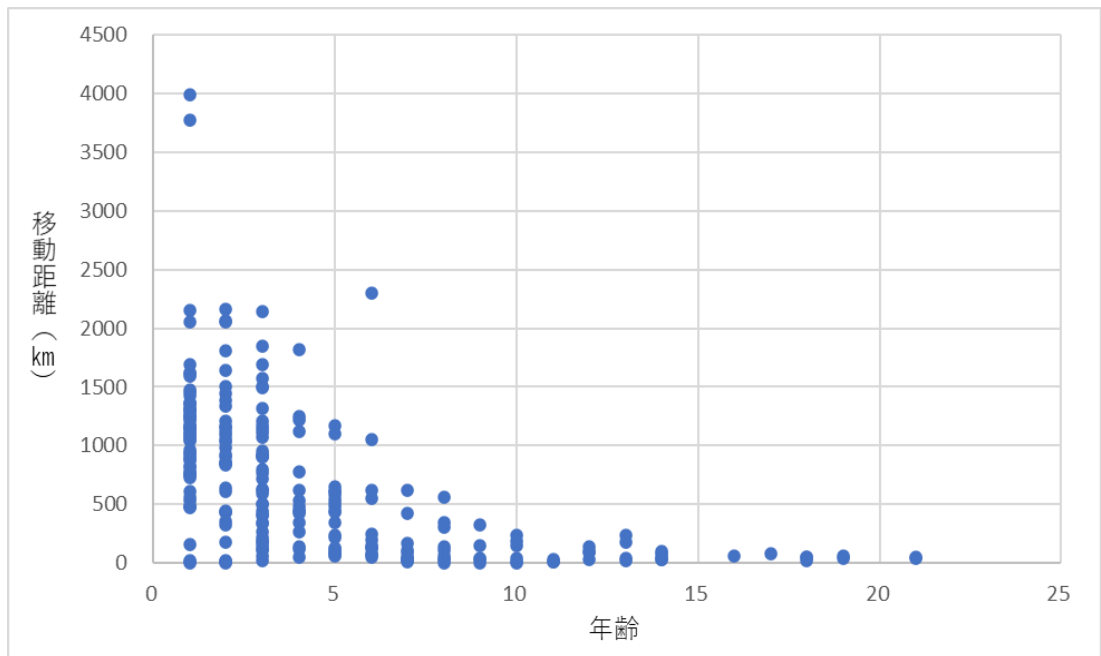


図3 :各コウノトリの移動距離と年齢の関係性;青点が各個体を示す



次に、各個体の1年間の総移動距離と年齢の関係性をまとめて図3に示しました。年齢の高い個体において、移動距離が短い傾向にありました。繁殖実績のある個体は比較的年齢が高く、また巣塔周辺に滞在するため、年齢の高い個体の移動距離が短い傾向になったのかもしれませんが、比較的若いコウノトリは、長距離移動をする個体とあまり移動をしな個体が混在していました。積極的に移動する個体とそうでない個体とで、どのような違いがあるのかについても着目して分析を進めていきたいと思っています。

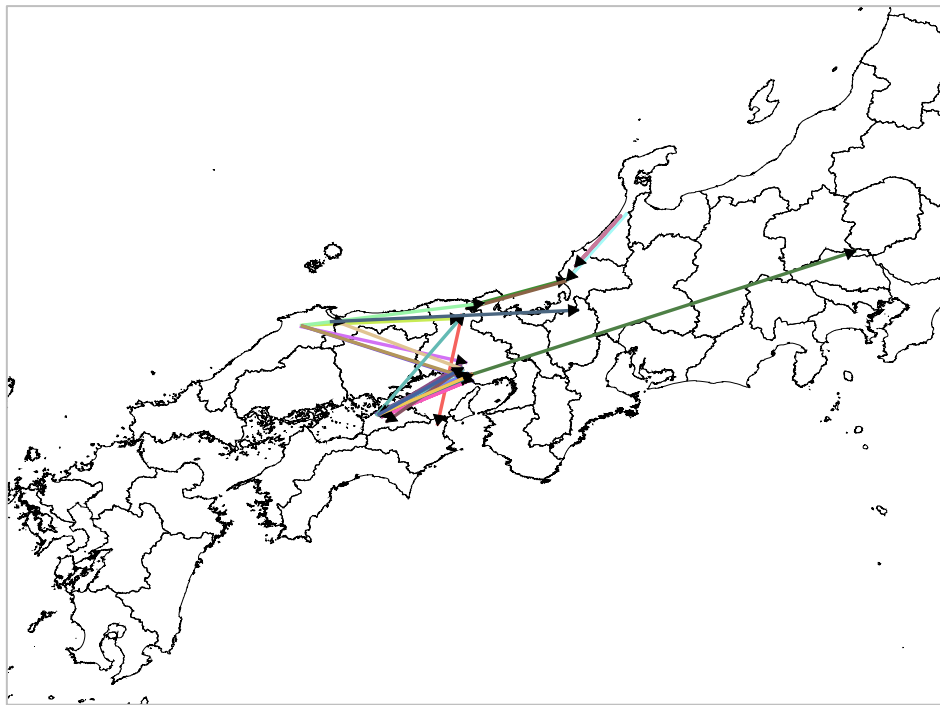
次に、2022年の1年間において、コウノトリが1日でのくらい長距離移動したかについて分析しました。同じ個体が2日連続で報告された記録だけを取り出して、どこからどこに移動したかを確認しました(例えば、J0XXXX:1月1日兵庫県豊岡市→1月2日徳島県鳴門市など)。表3に1日に100km以上の移動が確認されたデータを示しました。また、その移動の軌跡を図4に示しました。1日の移動距離が最も長かった記録は、J0344(りょう)の481kmで、1日で兵庫県加古川市から群馬県邑楽郡へ移動したことが分かりました。コウノトリにとって渡良瀬地域から兵庫県周辺地域までは、中継地で十分に休息をとらずとも短時間で移動することができると距離なのかもしれません。



また、瀬戸内海を越えて兵庫県の播磨地域と香川県丸亀市周辺間を移動するコウノトリが多く見られました(一方通行ではなく、両方向で移動)。特に、J0344(春花)は、1月8日に香川県丸亀市で、1月9日に兵庫県加古川市への移動が確認された後、同日(1月9日)に香川県丸亀市で確認されました。コウノトリがよく利用する移動経路の一つなのかもしれません。

今後は、「長距離移動がどのような条件(風向き、風速、日照時間など)で行われやすいか」、「よく利用されている移動経路や移動の拠点(ハブ)となる地域」についても分析していきたいと思っています。兵庫県加古川市と香川県丸亀市間の移動については、丸亀市の調査員の方から情報を教えていただきました。過去のデータも併せて分析を進めていきます。

今回の分析以外に、1年に1回コウノトリ市民科学のデータのまとめたものをホームページ(活動紹介↓文献発表)で公開していますので、ぜひご覧になってください。また、2022年のデータ分析・まとめも始めていますので、コウノトリの観察を通して気づいたことや分析して欲しいことがあれば、事務局まで是非ご連絡ください。



凡例 ID

- 1 → 18
- 2 → 19
- 3 → 20
- 4 → 21
- 5 → 22
- 6 → 23
- 7 → 24
- 8 → 25
- 9 → 26
- 10 → 27
- 11 → 28
- 12 → 29
- 13 → 30
- 14 → 31
- 15 → 32
- 16 → 33
- 17 → 34

図4：1日の長距離移動（表3も参照）

ID	個体番号	移動距離(km)	移動前 → 移動先	ID	個体番号	移動距離(km)	移動前 → 移動先
1	J0341	481.0	兵庫県加古郡稲美町 → 群馬県邑楽郡邑楽町	18	J0178	123.3	香川県丸亀市 → 兵庫県加古郡稲美町
2	J0439	296.1	島根県安来市 → 滋賀県長浜市	19	J0395	120.5	香川県丸亀市 → 兵庫県加古郡稲美町
3	K0001	247.4	石川県河北郡津幡町 → 福井県福井市	20	J0324	119.8	香川県丸亀市 → 兵庫県加古川市
4	J0216	230.0	香川県丸亀市 → 香川県丸亀市	21	J0324	119.8	香川県丸亀市 → 兵庫県加古郡稲美町
5	J0344	229.7	香川県丸亀市 → 香川県丸亀市	22	J0205	118.7	京都府京丹後市 → 福井県越前市
6	J0205	226.8	石川県河北郡津幡町 → 兵庫県豊岡市	23	J0240	118.5	香川県丸亀市 → 兵庫県加古川市
7	J0219	220.7	島根県雲南市 → 京都府京丹後市	24	J0274	118.0	兵庫県加古川市 → 香川県丸亀市
8	J0375	216.4	島根県雲南市 → 兵庫県明石市	25	J0491	117.3	香川県丸亀市 → 兵庫県加古川市
9	J0392	209.7	島根県雲南市 → 兵庫県明石市	26	J0444	115.5	兵庫県加古郡播磨町 → 香川県丸亀市
10	J0197	203.8	島根県雲南市 → 兵庫県加西市	27	J0334	115.1	兵庫県加古川市 → 香川県丸亀市
11	J0135	189.1	島根県雲南市 → 兵庫県養父市	28	J0286	113.8	兵庫県加古川市 → 香川県丸亀市
12	J0358	167.3	兵庫県加古川市 → 島根県安来市	29	J0395	113.8	兵庫県加古川市 → 香川県丸亀市
13	J0415	162.5	香川県善通寺市 → 兵庫県豊岡市	30	J0401	113.8	兵庫県加古川市 → 香川県丸亀市
14	J0216	139.0	兵庫県豊岡市 → 徳島県鳴門市	31	J0286	113.6	兵庫県加古川市 → 香川県丸亀市
15	J0434	124.1	香川県丸亀市 → 兵庫県加古郡稲美町	32	J0331	113.6	兵庫県加古川市 → 香川県丸亀市
16	J0468	124.1	香川県丸亀市 → 兵庫県加古郡稲美町	33	J0230	109.9	石川県河北郡津幡町 → 福井県越前市
17	J0261	123.3	兵庫県加古郡稲美町 → 香川県丸亀市	34	J0420	109.9	兵庫県加古川市 → 香川県仲多度郡

表3：移動距離・場所と個体情報（1日に100km以上の移動）

コウノトリ市民科学より
調査員の皆さんからのご意見

事務局には、調査員の皆さんから様々なご意見が届いています

① 個人のブログやタイムラインだけでなく、点の移動しか解らない。市民科学の力で点が線に繋がると、加古川⇨丸亀の場合、数時間のうちに加古川⇨丸亀⇨加古川と移動して、更に翌日は丸亀に移動しているのが解かる、とても貴重なデータだと思う。時刻・確認場所がより精密に送られれば凄いい事になりそう。コウノトリ市民科学の皆様の情報のお陰で私も色々、知見が増え観察が楽しくなった。

② 個体識別について、足環が分かる個体とそうでない個体があり、公開の基準が分からない。投稿時間順に公開されていない。コウノトリの飛来に感動を受けて、観察し情報を送っているので改善してほしい。

③ 観察マナー、路上駐車など地域の方に迷惑をかけないように、調査員皆で心がけたい。

④ 死亡個体が公開されていることがある。個体番号が間違っていて公開されていることがあるので、注意して公開してほしい。

※ご意見は記録し、話し合いを進めております。間違いに気付かれた方は、その都度、教えていただくと有難いです。

戸島湿地における繁殖記録

日本コウノトリの会 会員 井上 遠

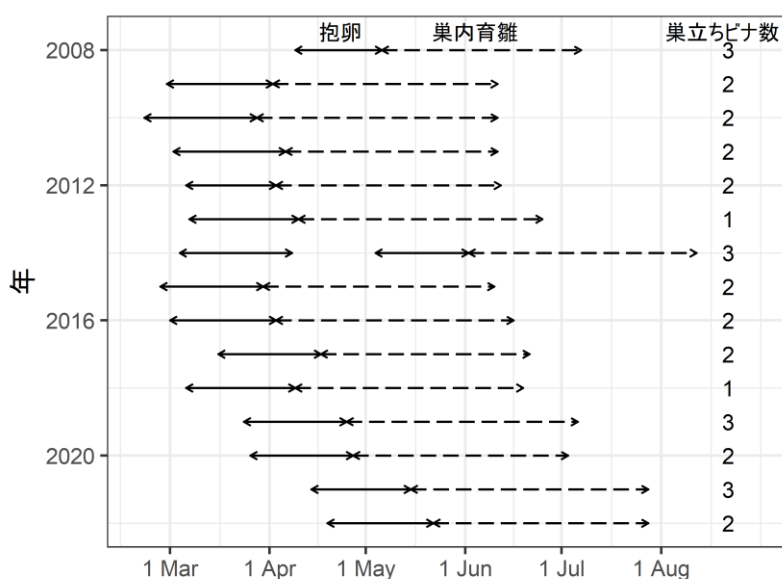
2005年のコウノトリ野生復帰以降、戸島湿地では2008年に初めて繁殖に成功し、その後毎年同じペア（オスはJ0391、メスはJ0294）が繁殖を続けています。そして、コウノトリ湿地ネット（現在は日本コウノトリの会）により、戸島湿地での繁殖に関するデータが継続して記録されています。2015年以降は、ビデオカメラによるモニタリングが開始され、交尾や巣材運び、抱卵、給餌などの詳細な繁殖行動に関するデータが蓄積されており、現在そのデータ分析と科学論文へのとりまとめを進めています。データの分析からわかってきたことについて、何度かに分けてご紹介したいと思います。

今回は繁殖時期について紹介します。年ごとの抱卵期と巣内育雛期について、図にまとめました。抱卵日数は33日程度、巣内育雛日数は70日間程度で、年によって大きな違いはありません。一方で繁殖開始時期（産卵時期）は年によって異なっており、2か月ほどずれがありました。初めて繁殖が確認された2008年は4月に産卵が確認されましたが、2009～2018年まで（2014年の第2クラッチを除く）

は2月下旬から3月中旬にかけて産卵をしています。そして最近では、産卵時期が遅くなっており、3月下旬もしくは4月に入ってから産卵しています。

なぜ最近産卵時期が遅くなっているのか、はっきりとしたことはわかりません。一般的に、鳥類の繁殖時期は餌生物の発生時期によって規定されていると言われています。コウノトリの場合には、餌となる魚類や昆虫、両生爬虫類などの生物が多く発生する時期に合わせて繁殖していると考えられ、そのような餌生物の発生時期の変化が影響しているのかもしれませんが、近年は近くの電柱で他のペアが繁殖を始めるなど、繁殖密度の増加とそれに伴う他個体との闘争が増加していると考えられます。他の個体の影響で、繁殖開始時期が遅くなっている可能性も考えられます。また、戸島のペアは既に10年以上にわたって繁殖を続けており、高齢個体になりつつあるため、年齢や個体の状態も繁殖に影響しうる要因の一つかもしれません。

さらに、産卵時期が遅かった2008、2014（第2クラッチ）、2019、2021年には巣立ったヒナの数は3羽で、他の年に比べて多くのヒナが巣立っています。産卵時期と巣立ちヒナの数の間に関係があるのか、あるとすると



どのような関係があるのか、ということとはわかりませんが、繁殖時期が遅いほど餌生物の数が多く、ヒナが巣立ちやすいのかもしれませんが。

今後も継続して記録を続けていくことで、何か新しいことが明らかになるかもしれません。一方で、今回のデータは戸島湿地でのペアの記録であり、他のペアや他の地域での傾向はわかりません。是非、皆さんのお住まいの地域での繁殖時期について、情報がありましたらお寄せ下さい。

コウノトリ湿地ネットから日本コウノトリの会へ

2016年8月に京都にて、各地でコウノトリを見守る皆さんが集い『日本コウノトリの会』が発足しました。

コウノトリが全国へ飛び交うなか、当初の予定では、各地でコウノトリをシンボルにして自然保護活動をしている市民団体の集合体「コウノトリを支える市民の会」を立ち上げたいと考えていましたが、そうなる団体に属していない人が入会できなくなる。多方面に入会を呼び掛けたいとの意見もあり、「日本コウノトリの会」として、市民団体、企業、個人で会員を募ることに決まりました。入会金は決意表明として1万円。賛助会員は広く募集して一口千円とすることが即決したことは、印象的で昨日のこのようによく覚えていきます。事務局として身が引き締まる思いでした。

その後四年間は、コウノトリ湿地ネットと日本コウノトリの会2つの会で活動を続けていましたが、2020年3月をもって、コウノトリ湿地ネットは発展的解散をして「日本コウノトリの会」に移行することとなりました。

「コウノトリ市民科学」公開

2016年9月、越前市コウノトリ放鳥式に参

加させていただいた際、当時中央大学の鷺谷いづみ先生より「コウノトリ情報」の呼びかけを全国へ拡大し、参加型で誰でも活用できる「市民科学」のデータベースを作ってはと提案を受け、データ統合・解析システムDIASへとつないでいただきました。豊岡市からも「飛来地ネットワーク構築事業」として支援していただけることとなり、2018年7月豊岡市で開催した「コウノトリを支える市民交流会」で公開しました。

公開後、2年間は情報公開の在り方についてお叱りやご意見をいただき悩みました。各地へ出かけ、直接お話しさせていただいたこともありました。今も悩みは尽きませんが、市民科学の願いを共有して共に歩んでいただけの方を一人でも増やせるよう務めています。現在三名で公開作業をしておりますが、間違いも多々あります。お気づきになられたことは事務局までお知らせいただけると有難いです。

コウノトリの餌場作り始めました

但馬県民局から助成金をいただき、兵庫県美方郡香美町の休耕田を活用して、香住高校の皆さんと一緒に餌場つくりや生きもの調査を始めました。各地で餌場つくりを始めたい方、事務局までご相談ください。

お知らせ

○「対馬での人工巣塔建設を準備」

日本コウノトリの会では、次のステップである東アジアとのつながりを視野に入れ、日韓の中間点である対馬に巣塔を設置を目指しています。対馬では飛翔中継地もしくは繁殖地づくりを行い、近い将来、営巣地が大陸とつながっていくようにしたいと考えています。近年では、韓国でのコウノトリ野生復帰事業が活発に展開されており、日韓の協力で作業に取り掛かる予定です。

2022年1月に現地調査に向き、地元の方と共に場所の選定や業者との協議を行いました。巣塔の設置は2023年3月下旬を目指しています。

○「福井県丹生郡越前町八田地区に人工巣塔建設準備」

越前町では有機・無農薬栽培を続けておられる「田んぼの天使」（農業法人）があり、この地域で過ごすコウノトリのために、個人より当会へ寄付金をいただきました。巣台と運搬費を寄贈し、地域で募金を募られ3月に着工予定です。

○「J0347、高病原性鳥インフルエンザ感染」

2022年11月15日に、香川県丸亀市で

J0347の死体が発見され、鳥インフルエンザの簡易検査をされたところ、陽性反応が確認されたところ、香川県より発表がありました。後日、2022年1月22日に、遺伝子検査の結果、高病原性鳥インフルエンザの感染が確認、発表されました。

近々の予定

○「コウノトリ・コウノトリ市民科学学習会 高松」

日時：2023年2月4日（土）15時～16時半ごろ

場所：高松市香西コミュニティセンター会議室

香川県高松市香西本町476の1

○「コウノトリ・コウノトリ市民科学学習会 丸亀」

日時：2023年2月5日（日）10時～1時半ごろ

場所：丸亀市市民交流活動センター マルタス

香川県丸亀市大手町2丁目4番1号

（DIAS安川雅紀特任助教 会員 大坂 森 参加）両日

○「2023年度但馬の環境保全を考える事例発表会」

日時：2023年1月21日（土）12時半～16時

場所：兵庫県立但馬文教府ふるさと交流館

兵庫県豊岡市妙楽寺4-1の1

会員の濱本さんが、香美町での活動発表をされます。

○「コウノトリ全国一斉調査」

日時：2023年3月21日（火・祝）

野外放鳥されたり、野外で繁殖したコウノトリが全国を飛び回り、その羽数が増え、飛来地は拡大している

ます。彼らが今どこでどう過ごしているのか、全国の皆さんに参加いただき、一斉調査を行います。ぜひ、調査に加わって下さい。

調査方法①「コウノトリ市民科学」調査員ページ②メール③電話の3手段で行います。（②と③の連絡先は表紙に記載）

結果は、コウノトリ市民科学と日本コウノトリの会ホームページで発表します。

ニュースレターの名称を募集！

ニュースレターをより親しんでいただくために、名称を募集します。どしどしお寄せください！

※2月末締め切り

送り先は 日本コウノトリの会事務局まで

（表紙に記載）

ニュースレター発行の話し合いは、今までにも何度かありましたが、なかなか実行に至れず今回やっと発行することができました。今後は年3回を目標に発行したいと思っておりますので、原稿依頼をお願いした際には、よろしくお願いいたします。内容についても気楽にご意見を伺いたいです。

会員を募集しています！

私たち「日本コウノトリの会」は、コウノトリがかつてのように日本各地で暮らせるようになってほしいと願い、そのために各地で人と自然が共生する環境づくりを進めていくことを目的に結成された市民の会です。

具体的に、こんなことをします。

◇コウノトリの各地の様子を見守り、その情報を発信してみんなで共有します。

◇コウノトリのことを理解してもらうため、いろんな方法で啓発します。

◇コウノトリの餌場になるようにビオトープをつくり、子供を産めるように人工巣塔を建てていきます。

◇人間とコウノトリが共に暮らせる社会づくりをみんなで考え、一つずつ取り組みます。

■正会員（一緒に考え、行動される方）

「入会金」 10,000円

「年会費」 2,000円

■賛助会員（当会の活動を支えていただける方）

「年会費」 個人10,000円

団体 企業10,000円

原稿・川柳をお寄せ下さい！

この会報誌は、できるだけ皆さんの想いを反映できればと思っています。一緒に楽しい会報に成長させていきたいので、皆さんのご参加をお待ちしております。普段の生活の中での気づきなどを、原稿または川柳でお寄せ下さい。

送付方法

○原稿は15000字程度を目安に。メールまたはFAXにてお送りください。

○川柳は、作品と解説をメールまたはハガキにてお送りください。

(送り先 表紙に記載)

メールの件名は、それぞれ「会報誌の原稿・川柳」など、わかりやすいものにしていただけますと、ありがたいです。

編集後記

私が初めて豊岡を訪れたのは2016年でした。それ以来、鳥を研究してきた者として、コウノトリや生物多様性の保全に科学的な立場から貢献したいとずっと思ってきました。具体的な成果はまだ出ていませんが、会報を通じて、皆さんに科学的な知見を共有し、皆さんからも質問やコメントを頂いたり、各地でのコメント

を頂いたり、各地でのコウノトリの様子について教えて頂けると嬉しいです。(井上)

数年前、髪を切りに行った際に美容室のスタッフとコウノトリの話題になり、おとき話の中の鳥じゃなかったのか！と驚かれたのが印象的でした(そのくらいコウノトリが珍しく、知名度もなかった)。今や野外にいるコウノトリは300羽を超え、会社においてもコウノトリや保全の取組みに関する話を聞く機会が増えました。人の意識の中にもコウノトリが増えてきているのだなど実感して嬉しく思います。また、同時に市民科学にもデータが増えてきていますので、面白い結果をご報告ができるように分析を頑張りたいと思います。(大坂)

これまでコウノトリの常識だといわれていたことがどんどん覆されてきています。コウノトリの縄張りは半径2kmほどといわれていましたが、豊岡市城崎町戸島では、わずか200数十mのところ、2つのペアが子育てをしました(2年連続で)。また添い遂げるというのも、豊岡市日高町山本ペアの「離婚」として、メディアに取り上げられるという事もありました。例外なのかもしれません、新たな姿を見せています。

2005年に野外放鳥されて、たかが7年。まだ成人にも満たない年です。これからいろいろな変化が起ころうでしょう。皆さんと共に、コウ

ノトリの変化に追いつき、先回りできるように励んでいきたいです。(永瀬)

生きものより生活そのものに興味があった私の世界を広げてくれたのがコウノトリです。ここ15年はハチゴロウの戸島湿地に勤務し、戸島ペアと共に過ごした15年でした。戸島ペアは何度も他のコウノトリに襲われてきました。J0391は3度足を痛め、J0294は他のメスの攻撃に飲まず食わずで、耐え続けました。子どもたちの中には、トラバサミにかかり負傷した個体もいます。野外繁殖15年連続のペアが、どこまで繁殖できるのか記録を残せる唯一のペアだと思います。このまま、自然に任せ繁殖・巣立ちの記録を残し、皆さんと共有できることを願っています。

もし、コウノトリと出会わなかったら…：どのように過ごしていたでしょう。もう少し、親孝行できたかな。家族の気持ちに寄り添えたかな？と、自問自答しつつも…：私の人生の中で、かけがえのない時間でした。年齢だけは重ねていても、未熟な私が戸島湿地勤務を続けてこられたこと、事務局を務められたことは、多くの方に支えていただいたおかげと感謝しています。日本コウノトリの会の事務局はもう少しの間、務めさせていただきます。今後とも、よろしくお願いたします。(森)